

人工海浜の利用者特性から見た付加価値の検討

千葉工業大学生命環境科学専攻 学生員 ○遠藤 広悠
 千葉工業大学生命環境科学科 フェロー 矢内 栄二

1. はじめに

「いなげの浜」は、東京湾奥部に位置するレクリエーションを目的とした国内初の人工海浜である。この浜は、年々利用者が減少しているため、いなげの浜を運営する千葉市は、利用者増加対策を検討している。

本研究では、海岸利用者の特性を分析するとともに、千葉市が「いなげの浜」の利用者増加対策の一助となるよう、利用者の意識についてアンケート調査を実施し、利用者増加のために対策の検討を行った。

2. 調査概要

調査海浜は、図-1 に示す千葉県千葉市に位置するいなげの浜である。



図-1 いなげの浜

表-1 は、アンケート調査の設問内容を示したものである。性別、いなげの浜の印象、どのようなイベントに参加したいかなど 17 項目とした。

3. 結果と考察

(1) 利用者の特性

図-2 に、利用者の居住地について示す。利用者は千葉市内に居住している者が各年度とも半数を超えており、県内の他市町村に居住している利用者も 20%前後存在し、千葉市内と他市町村の利用者数を合わせると全体の 80%に達する。このことから、利用者の中心は千葉県内の居住者であることがわかる。

図-3 は、利用者の利用頻度である。ここで、利用頻度が「週数回」「月数回」の利用者をリピーター、「初めて」「年数回」の利用者を非リピーターとする。利用頻度は、非リピーターが約 60%となり徐々に増加

表-1 アンケート設問内容

設問	アンケートの設問内容
1	あなたの性別を教えてください
2	あなたの年齢を教えてください
3	あなたは今日、誰と来ましたか
4	あなたは今日、どこから来ましたか
5	あなたは今日、どのような手段で来ましたか
6	今日、どのような目的で浜を利用していますか
7	あなたはどのくらいの頻度でいなげの浜を利用していますか
8	いなげの浜のゴミについてどう思いますか
9	浜では定期的にゴミの清掃を行っていることをご存じですか
10	浜のゴミは誰が清掃すべきですか
11	ゴミを減らす手段として最適なのはつぎのどれだと思いますか
12	いなげの浜の良い印象はありますか
13	いなげの浜の悪い印象はありますか
14	いなげの浜を将来的にどのようにしたら良いと思いますか。
15	以前浜に来た時と変化はありますか
16	いなげの浜にまた来ようと思いますか
17	イベントを開催するならどのようなイベントに参加したいですか

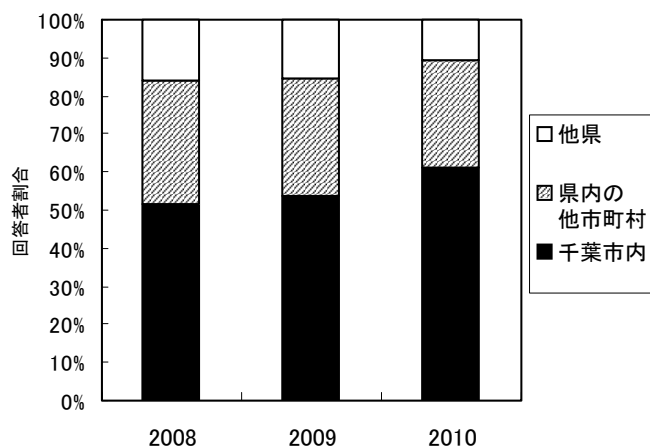


図-2 居住地

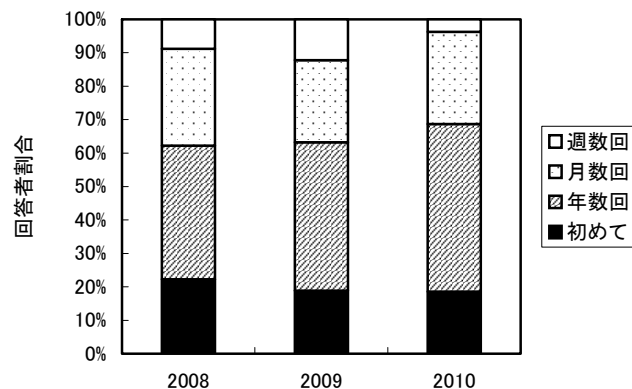


図-3 利用頻度

している．一方，リピーターの占める割合は減少しているため，増加対策が必要である．

利用者が将来いなげの浜に求めるものを図-4 に示す．質問項目に関し，2010 年から新たに「海の家を作る」を追加した．「このままが良い」という意見が約 30%を占めるが，徐々に減少している．また，他の 4 つの回答については 20%前後の支持が得られており，中でも「イベントをする」が最大の支持を集めている．このことから，イベントの実施を含め，いなげの浜に対する新たな付加価値が求められている．

(2) プロフィール分析

利用者の利用頻度の特性を把握し，リピーターの増加対策を検討するため，数量化Ⅱ類を用いてアイテム分析とカテゴリー分析を行った．分析を行うにあたり，アンケート内容から，リピーター（週数回，月数回）・非リピーター（初めて，年数回）の層別に，利用頻度（目的変数）に寄与していると思われる質問事項を 4 項目（性別，年齢，居住地，将来的な要望）選択し，それらを説明変数として分析を行った．

リピーターと非リピーターの要因を判別するためアイテム分析を行った(表-2)．寄与率が最も高い項目は「居住地」であり，次いで「将来像」という結果が得られた．

表-3 に，カテゴリー分析の結果を示す．リピーターは，浜の利用が容易な千葉市内に居住している人により構成されている．また，将来的な要望として「近隣の浜を繋げる」ことが望まれている．非リピーターは，他県からの利用者により構成され，「海の家」や「レストラン」といった飲食可能な施設が求められている．また，「イベントをする」といった浜を利用するにあたっての付加価値も求められている．

4. まとめ

利用者の内訳は，非リピーターが 7 割を占めており，いなげの浜に対する新たな付加価値が求められている．

利用者増加対策として，利用者の中心である非リピーターをリピーターにすることが必要と考えられ，そのためには，食事施設の設置やイベントの実施が効果的と考えられる．

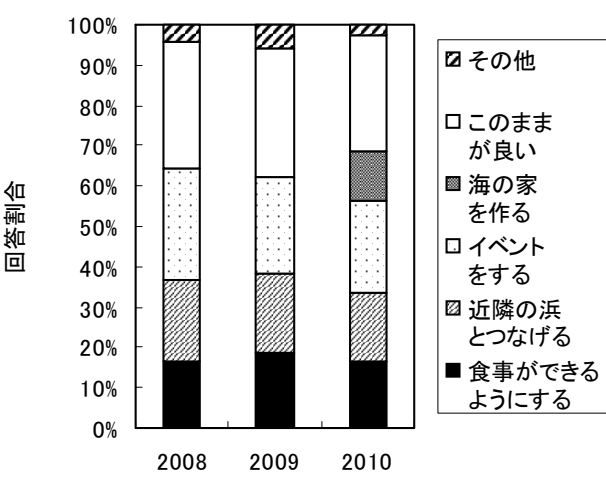


図-4 いなげの浜に求めるもの

表-2 アイテム分析

アイテム名	レンジ		偏相関係数	
居住地	2.325	1 位	0.211	1 位
将来像	1.560	2 位	0.136	2 位
性別	0.946	3 位	0.132	3 位
年齢	0.563	4 位	0.069	4 位

表-3 カテゴリー分析

		リピーター	非リピーター
利用者の	性別	男性	女性
	年齢	30 代	40 代
	居住地	千葉市内	他県
将来的な要望		近隣の浜を繋げてほしい	海の家がほしい
			レストランがほしい
			イベントをしてほしい

参考文献

1) 矢内栄二・安東大地・清水陽一(2009)：都市部の人工海浜における利用者増加対策の検討，海洋開発論文集，Vol.25， pp.765-770．
2) 安東大地・社田裕美・矢内栄二(2008)：人工海浜「いなげの浜」で望まれるイベントに関する意識調査，土木学会年次学術講演会講演概要集(CD-ROM)，Vol.63rd.Disk 1 Page.ROMBUNNO.2-064
3) 矢内栄二・矢島秀二・並木勇輔(2005)：人工海浜の海岸ゴミに対する利用者意識の変化，海洋開発論文集，Vol.21， pp.205-210.